

各部・支所・課、機関の長 殿

市 長

令和 5 年度予算編成方針について（通知）

1 国の動向

内閣府が発表した 8 月の月例経済報告では、景気認識を示す基調判断を「景気は、緩やかに持ち直している。」としており、「先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等を背景とした海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇による家計や企業への影響や供給面での制約等に十分注意する必要がある。」としている。

これを受けた国の政策の基本的態度は、新型コロナウイルス感染症や世界的な物価高騰への対応、エネルギーの安定供給確保など様々な課題に直面する中、政府は、あらゆる政策を総動員し、国民生活と我が国経済を守り抜くとしている。

令和 5 年度予算の概算要求の基本的な方針は、「経済財政運営と改革の基本方針 2022」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2021」に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化することとしている。

2 本市の状況

本市の普通会計における令和 3 年度決算の歳入総額は、6 5 6 億 1, 6 0 5 万 1 千円、歳出総額は、6 2 2 億 2, 7 7 9 万 9 千円であり、実質収支は、2 8 億 7, 0 9 9 万円の黒字となり、実質単年度収支も、9 億 9, 8 1 4 万 2 千円の黒字となった。なお、財政調整基金の令和 3 年度末残高は、8 1 億 7, 1 0 6 万 7 千円で 3 億円程増加となった。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率では、8 6. 7 %と前年度から 6. 1 ポイント改善しているが、適正な水準とされる 7 0 %～8 0 %程度より高く、依然として財政構造の硬直化が続いている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、市民が安心して生活できるよう、感染防止や地域経済への対策、原油価格・物価高騰対策などの施策を展開する必要がある。加えて、少子・高齢化に伴う社会保障関係経費、公共施設の維持管理経費など、経常的経費が年々増加している状況であることから、より一層の効率的・効果的な行財政運営に努める必要がある。

3 本市の予算編成方針

令和5年度の予算編成においても引き続き、「第2次薩摩川内市総合計画」、「未来創生10ビジョン」及び「アフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望」の着実な進展を図るとともに、社会の動向や行政ニーズを的確に捉え、新たな行政課題に積極的に取り組む。

新型コロナウイルス感染症は、市民生活や経済活動に多大な影響を及ぼしており、引き続き、「Withコロナ」として感染防止や地域経済への対策に取り組むとともに、「Afterコロナ」として収束後を見据えた取組を推進する。

また、持続可能で魅力的なまちづくりを目指す昨年6月の「薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言」及び本年9月策定の「薩摩川内市SDGs未来都市計画」の趣旨を踏まえた取組を推進する。

一方、今後も厳しい財政状況が見込まれる中、限られた財源を有効に活用するため、全ての事業の効果や成果を厳しく検証し、事業の廃止・休止など積極的な見直しやスクラップ・アンド・ビルドにより、新たな施策展開のための財源を確保するとともに、あらゆる財源の確保に努め、中期財政運営指針に基づき健全で持続可能な財政基盤を堅持する。

なお、この方針に定めるもののほか、予算編成の基本的な考え方や要求要領等については、別途示すこととする。